

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

|         |                     |
|---------|---------------------|
| 上位の施策名称 | 施策 I-1-3 新産業・新事業の創出 |
|---------|---------------------|

1. 事務事業の目的・概要

|          |              |      |              |
|----------|--------------|------|--------------|
| 事務事業担当課長 | 産業振興課長 馬庭 正人 | 電話番号 | 0852-22-5291 |
|----------|--------------|------|--------------|

|         |   |
|---------|---|
| 事務事業の名称 | 先端技術イノベーションプロジェクト   |
| 目的      | (1) 対象 県内の主に製造業、県内食品関連企業、県内ICT（情報技術関連）企業などを対象とする。<br>(2) 意図 産業技術センターにおいて、オンリーワンの新製品・新技術を研究・開発し、県内企業に技術を移転する。  |
| 事業概要    | 以下の9つのテーマについて、県内企業と産業技術センターが密接に連携して研究開発に取り組み、オンリーワンの新製品・新技術を創出することにより、連携企業の市場競争力の向上と、雇用及び製造出荷額の増を図る。<br>①特殊鋼・素形材加工技術強化 ②溶射・気相成膜発展技術開発 ③レアメタル代替技術開発 ④次世代パワーエレクトロニクス技術開発<br>⑤熱・シミュレーション応用技術開発 ⑥ヒューマンインターフェイス技術開発 ⑦有機フレキシブルエレクトロニクス技術開発<br>⑧高齢化社会対応の機能性素材開発 ⑨感性数値化・食品等高付加価値化 |

2. 成果参考指標

|            |      |  |     |      |      |        |        |      |    |
|------------|------|--|-----|------|------|--------|--------|------|----|
| (1) 成果参考指標 | 指標名  | 県内企業への技術移転が見込めるプロジェクトの件数[平成25年度からの累計]            | 年度  | 23年度 | 24年度 | 25年度   | 26年度   | 27年度 | 単位 |
|            | 式・定義 | 県内企業への技術移転が行われたと判断されるプロジェクト（テーマ）の件数[平成25年度からの累計] | 目標値 |      | 0.00 | 1.00   | 4.00   | 9.00 | 件  |
|            |      |  | 実績値 | 0.00 | 0.00 | 1.00   | 4.00   |      |    |
|            |      |  | 達成率 |      | 0.00 | 100.00 | 100.00 |      | %  |
| 指標名        | 式・定義 | 県内企業への技術移転が見込めるプロジェクトの件数[平成25年度からの累計]            | 年度  | 23年度 | 24年度 | 25年度   | 26年度   | 27年度 | 単位 |
|            |      |  | 目標値 |      | 0.00 | 0.00   |        |      |    |
|            |      |  | 実績値 | 0.00 | 0.00 | 0.00   |        |      |    |
|            |      |  | 達成率 |      | 0.00 | 0.00   |        |      | %  |

3. 事業費

|             |         |         |
|-------------|---------|---------|
|             | 26年度実績  | 27年度計画  |
| 事業費(b) (千円) | 180,139 | 219,435 |
| うち一般財源(千円)  | 180,139 | 219,435 |

4. 改善策の実施状況

|                     |                        |
|---------------------|------------------------|
| 前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況 | ②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む） |
|---------------------|------------------------|

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

市場調査の結果に基づき、研究ターゲットを定め、県内企業等と連携に向けた情報交換をし、研究・開発を開始。共同研究契約等を延べ18件締結し、県内企業との連携が進んでいる。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

・技術移転が見込めるプロジェクト件数が4件となり、具体的な事業化に向けた動きが加速している。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

順調に推移しているが、より多くの事業化のため、特許などの活用や競争の激しい分野についてはニッチなマーケットも視野に入れて革新的な技術の創出が必要。

②困っている状況が発生している「原因」

競争の激しい分野については市場ニーズの変化などがある。

③原因を解消するための「課題」

市場の動向を踏まえながら、企業との連携による研究・開発ステージに移行させ、事業化につながるよう研究開発を加速させる必要がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- 市場に敏感に対応できるよう意識しながら、県内企業と更に連携を深め、研究開発を集中的に推進する。
- 実用化に向けた技術については、連携企業に対する開発提案や技術支援を更に進めて事業化を目指す。
- 産業技術センターで開発した新しい技術については、県内企業へ早期に技術移転を進めて行く。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）